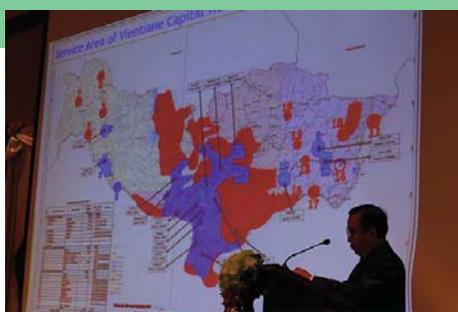


## Project MaWaSU第3回国際セミナー、第4回全国展開ワークショップ・ミニ(地域)ワークショップ、専門家活動、日本の支援状況など

2016年1月～3月の四半期に多くの活動が実施されました。年次開催の国際セミナーおよびP2P会議、四半期ごとの全国展開ワークショップに加え、北・中・南部3地域でのワークショップも開始されました。

2015年度後期短期専門家団の活動に加え、2月9日に佐伯孝志・長期専門家が赴任しプロジェクト終了まで活動します。

日本・JICA支援では、「タケク上水道拡張計画」事業が完了し3月2日に譲渡式、3月17日、21日にはそれぞれ「ビエンチャン上水場拡張計画」の開始を告げるE/N締結、L/A締結がなされました。



### Project MaWasU第3回国際セミナー

「蛇口から水を飲む文化の醸成」と題して2013年から開催している年次国際セミナーが第3回目を迎えました。

今年のテーマは「MaWasUプロジェクトからの発信」として、①プロジェクト3年目までの活動成果報告、②水道セクターで必要な資金需要を国内外の企業に説明し、ラオス国水道セクターへの協力企業を模索、③日本をはじめラオス国内外の経験や意見を聴き、今後の活動進捗に寄与することを目的に2016年2月17日、18日に首都ビエンチャンで国内外180名以上の参加を得て開催されました。  
(続きは2ページ)



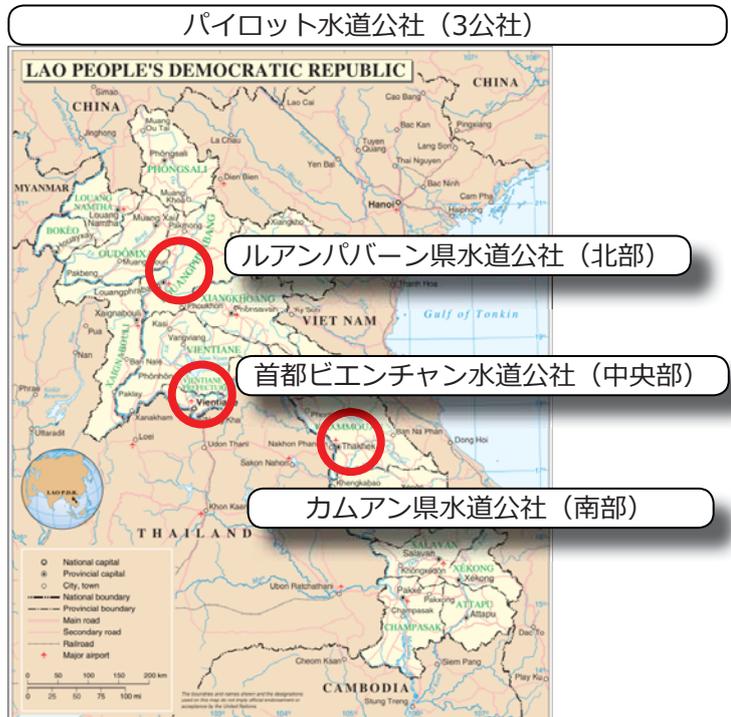
### 第4回全国展開ワークショップ

2015年6月から開始した全国展開ワークショップが第4回目を迎えました。今回のテーマはCustomer relationsのうち、特に今年全国の水道公社で開始してもらいたいお客様アンケートと水道教室を取り上げました。お客様アンケートは、水道事業を立案・実施管理するにあたって利用者であるお客様の要望を聞き、その要望に沿った水道サービスを行うという視点を持ち、実際に取り入れるためにプロジェクト開始当初に専門家団から提案したものです。  
(続きは2ページ)

### ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組みの整備を行っています。



## Project MaWasU第3回国際セミナー(続き)

基調講演として精力的に短期専門家派遣を継続している川崎市上下水道局から国際貢献について、また、かわさき水ビジネスネットワークからはJFEエンジニアリング株式会社が会社説明・事業紹介を行いました。



基調講演を行う川崎市上下水道局の升瀧氏

プロジェクト活動報告では、行政及びパイロット水道公社から目的②「水道セクターに必要な資金需要を国内外の企業に説明し、ラオス水道セクターへの協力企業の模索」を念頭に詳細が報告されました。具体的には、中央行政(水道局)からは、(1)水道ビジョン、(2)PPPの現状と今後、(3)水道事業ガイドラインを用いての新モニタリングシステム、地方行政(県公共事業運輸局)からは座談会として県の現状と今後の方向性について議論されました。また、パイロット水道公社からは策定した長期計画の目指す道として財政見通しや長期計画各分野の計画実施状況・課題について報告がありました。

日本、ラオスの民間、公営企業の参加は約10社を数え、会場には企業PRポスターや商品が展示されました。



企業PRを参照するセミナー参加者

セミナー日程変更により参加都合がつかなかった多くの企業はセミナー配布プロジェクトプロモーション・ノートブックに企業概要PRを掲載し日本企業からのアピールの機会にもなりました。

## 第5回P2P会議開催

Project MaWasU第3回国際セミナーに平行して第5回P2P(Project to Project)会議が開催されました。P2P会議も「蛇口から水を飲む文化の醸成」をテーマにしており、ラオスに加え、カンボジア、タイ、インドネシア、ミャンマー、ベトナムの近隣諸国の代表が「蛇口から水を飲む文化の醸成」への取り組みを紹介しました。

プログラムの最後には、インドネシア・水道分野政策アドバイザーの菅原繁専門家からの激励コメントおよび下村リーダーによる「MaWasU 2016」が宣言されました。「MaWasU 2016」宣言は、①水安全計画の促進、②年次顧客アンケートの実施、③小・中学校およびコミュニティへの水道教室の実施が含まれています。

3回連続でラオスで実施したP2P会議ですが次回は他国での開催も検討されています。



P2P発表者を激励する菅原専門家



P2P発表者へ記念品の贈呈

## 第4回全国展開ワークショップ(続き)

専門家団のアドバイスに従って2013年に開始したお客様アンケートは毎年5月～6月に実施され、現在では3パイロット水道公社合同の実施マニュアルが作成されています。

今回のワークショップでは、お客様アンケート担当者が実施マニュアルに沿って各県から集まった水道公社、県公共事業運輸局幹部へ目的、詳細な実施方法および3年間の結果を報告しました。

水道教室もお客様に水道事業に理解を示してもらう重要な活動です。特に小・中学校で行う水道教室は、近い将来お客様になる生徒に水および水道事業の重要性を理解してもらおうと同時に、学んだことをその日のうちに家族に報告してくれます。

ワークショップでは実施マニュアルの説明に加え、「百聞は一見にしかず」で模擬水道教室を実施しました。参加した各県水道公社、県公共事業運輸局幹部は生徒として水道教室を体験しながら、今後自分たちの水道公社で実施する際のイメージをしっかりと掴んでもらえたようです。

凝集沈殿実験による浄水処理過程や水道に含まれる残留塩素が水を口に含んだ時になくなる(体内に入らない)実験もワークショップ参加者には新鮮だったようです(ラオスでは水道に含まれる残留塩素が体内に入り蓄積されると考える人が多いようです)。

## ミニ(地域)ワークショップ、全国行脚

全国展開の深化を示すミニ(地域)ワークショップおよび全国行脚が開始されました。ミニ(地域)ワークショップは、北部(ルアンパバーン県)、中部(首都ビエンチャン)、南部(カムアン県)において全国展開ワークショップをフォローアップする形で行います。第1回目のミニ(地域)ワークショップは2016年2月～3月に実施されました。テーマはプロジェクトOutput1にあたるデータ管理です。3パイロット水道公社が作成してきたデータ管理マニュアル(データ管理改善計画を含む)をそれぞれの分野担当者が詳細を説明。また、長期計画策定に用いる業務指標(PI)に必要なデータ項目と実際に作成している水道事業ガイドライン報告書の紹介です。



分野担当者によるデータ管理の説明



積極的なコメントと質問をする参加者

全国行脚はミニ(地域)ワークショップをさらにフォローアップする形で、それぞれのパイロット水道公社と県公共事業運輸局が地域担当水道公社に赴き、出前講座と分野担当者ごとのOJTを行うものです。初回はカムアン県水道公社による南部行脚です。サワナケート県水道公社、サラワン県水道公社、チャンパサック県水道公社を約1週間をかけて出前講座とOJTを行いました。

今後は南部残り2県(セコン県水道公社、アツプー県水道公社)および中部各県、北部各県を巡回し全国展開が本格的にスタートします。



たかし専門家

2016年2月9日に水道事業計画を担当する佐伯孝志・長期専門家(たかし専門家)が赴任しました。たかし専門家は赴任直前まで愛媛県松山市公営企業局(水道部署)で勤務されていました。また、在任中にカンボジアにて青年海外協力隊に参加するなど海外経験もありMaWaSUプロジェクトにとっては適材の専門家です。今後プロジェクト終了まで3パイロット水道公社の各活動を支援していきます。

2016年2月22日および3月4日に2015年度後期短期専門家4名が離任しました。今期間の3パイロット水道公社への全体的な支援内容は、①2015年決算と②予算確定後の2016年活動年次計画の策定です。プロジェクトメンバー職員全員が短期専門家とOJTを行い活動を進捗させました。

決算、予算支援に平行した主な活動支援は以下のとおりです。

## 水質管理(阿部晃文専門家)

Output 1: データ管理

- ・2015年水道事業年報: 改善提案
- ・2015年水質年報: 2014年報のレビューと2015年報の作成支援
- ・データ管理マニュアル・データ改善計画: 精度管理提案

Output 2: 長期計画の策定・実施支援

- ・水安全計画: 改善提案
- ・水質管理体制整備計画: 分科会を通じて策定支援
- ・2016年水質検査計画: 策定支援

・残留塩素低減地域解消のための配水管整備計画: 策定支援  
水道事業経営管理・財政(鈴木清貴専門家)

Output 1: データ管理

- ・データ管理マニュアル・データ改善計画: 確認

Output 2: 長期計画の策定・実施支援

(1) 予算策定に関する支援

- 1-1. 予算策定の目的及び重要性の共有
- 1-2. 予算策定ノウハウの資料作成及び提供
- 1-2-1. 予算編成の進め方(予算編成にあたっての視点、スケジュール、包括配分経費等)
- 1-2-2. 予算要求様式
- 1-2-3. 予算科目表
- 1-2-4. 予算概要表

(2) 決算報告書作成支援

- 2-1. 予算と連動した勘定科目表の作成及び提供
- 2-2. 予算と連動した決算概要表の理解の共有
- 2-3. 減価償却費の償却年数に関する理解の共有

配給水管網(林佑樹専門家)

Output 1: データ管理

- ・データ管理マニュアル・データ改善計画: 実施、評価・見直し支援

Output 2: 長期計画の策定・実施支援

- ・既存配水管網整備計画: 管網図面作成支援
- ・無収水管理対策: 漏水分析シート提案

水道事業経営管理・営業(垣貫純一専門家)

Output 1: データ管理

- ・データ管理マニュアル・データ改善計画: レビュー、更新支援

Output 2: 長期計画の策定・実施支援

- ・人材育成に関する長期構想: 策定アドバイス
- ・水道メータ更新計画: 策定支援
- ・営業系システムに関する長期構想: 全体像説明

## 埼玉県企業局・草の根事業調査

埼玉県企業局によるJICA草の根技術協力事業「水道公社における浄水場運転・維持管理能力向上支援事業」のベースライン調査が2月15日～26日に実施されました。MaWaSUプロジェクトと連携して事業を進めていくため、支援対象となる水道公社も首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県です。3名の調査員は3水道公社を巡回視察し、以下の支援方針を策定しました。

I 3つの地方水道公社それぞれに1つの対象浄水場を選定し、集中的に支援する。その他の浄水場には、支援成果の普及を行う。

II 浄水場の現場職員(主に現場リーダー及び作業員)を基本的な支援対象者とし、現場での実地調査や操作を行いながら改善を行う。

III 将来的なラオス水道のレベルアップを見越して、今後の様々な環境変化への対応力が養えるような支援とする。

IV これまでJICAが支援してきた成果を活用し、さらなる発展を目指す。

対象浄水場は、首都ビエンチャン水道公社: カオリオ浄水場、ルアンパバーン県水道公社: ナムカン浄水場、カムアン県水道公社: タケク浄水場が提案されています。



公共事業運輸省・水道局と協議をする埼玉県企業局の調査員(右3名)

## 日本・JICAによる上水施設支援

2013年6月に贈与契約を締結した「タケク上水道拡張計画」事業によるタケク浄水場(施設能力15,000m<sup>3</sup>/日)が完成し、2016年3月2日に譲渡式が行われました。施設拡張に伴い配管拡張も実施されており、ラオス国家目標である2020年都市部普及率80%達成に向けて大きく前進します。MaWaSUプロジェクトによる事業運営能力支援および別項「埼玉県企業局・草の根事業」により譲渡後の施設運営は適切に実施される見込みです。



「タケク上水道拡張計画」譲渡式

2016年3月17日に「ビエンチャン上水場拡張計画」交換公文(Exchange of Notes (E/N))の署名式がありました。続く21日には借款契約(Loan Agreement (L/A))が締結されました。同計画はチナイモ浄水場拡張および配給水管網の整備が見込まれています。MaWaSUプロジェクトで支援した2020年計画給水区域、今後策定支援していく2030年計画給水区域に寄与する浄水場、配水管網となることが期待されます。



「ビエンチャン上水場拡張計画」E/N調印式

\*\*\* 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております \*\*\*

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話: jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ: <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>